

高齡者叙勲

〈47年間郵政事業に尽力〉

吉田 好雄さん（余別町）

瑞宝雙光章受章

元余別郵便局長の吉田好雄さん（余別町・88歳）が平成28年1月1日付で瑞宝雙光章を受章されました。

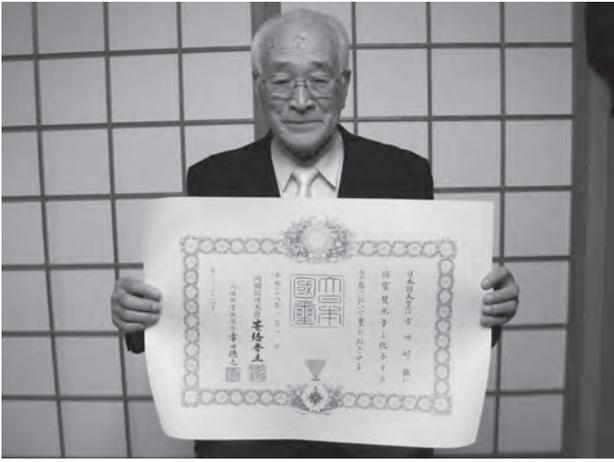
吉田さんは、昭和17年に余別郵便局で採用、野塚郵便局や琴似二条郵便局、浜益郵便局勤務を経て昭和57年には珊内郵便局

長に就任し、その3年後の昭和60年には故郷の余別郵便局長に就任。以来、平成2年まで同局長として勤務されました。

47年間もの長きにわたって郵政事業に尽力された吉田さんは、その誠実かつ優秀な仕事ぶりから、昭和48年には郵政大臣表彰（永年勤続表彰）を受賞、また、その優れた指揮能力を発揮され、局長を務めた余別郵便局の団体表彰として、昭和62年と平成元年の2度の道郵政局長表彰も受賞されました。

▲吉田 好雄さん

また、町選挙管理委員や余別自治会役員、同テレビ共聴組合役員なども歴任されました。
この度の吉田さんの受章を祝福し、益々のご健勝をお祈りします。



もうすぐ1年生！

今年は11人が入学

もうすぐ待ちに待った小学校の入学式です。今春、入学を迎える児童は、平成21年4月2日から平成22年4月1日までに生まれた次の11人です。

（児童・保護者の順、敬称略）

■ 美 国 小 学 校（5人）

石川 友^{ゆう}翔^と 悟 史
鈴木 鼓^こ堂^{どう} 良 治
徳田 優^{ゆう}陽^ひ 秀 明
福島 凛^{りん}空^く 亜 明
吉田 果^か叶^は 好 志

■ 日 司 小 学 校（1人）

三上 球^{たま}椿^き 貴 弘

■ 野 塚 小 学 校（1人）

西村 栞^{しおり} 巖

■ 余 別 小 学 校（4人）

飯田 蒼^あ偉^お 和 矢
伊藤 聖^せ 浩 介
野宮 権^い 之 昌
野宮 裕^{ゆう}成^{せい} 邦 明

社会福祉法人よいち福祉会

積丹町地域密着型特別養護老人ホーム

ゆうるり

4月1日オープン！



災害・緊急時の備え万全に！

～消防職員・団員・婦人防火クラブ・中学生が訓練実施～

消防職員・団員 雪害救助訓練（2月25日）

消防積丹支署駐車場で消防職員・団員による雪害救助訓練が実施されました。この日の訓練想定は吹雪の中で自動車1台が立ち往生し、中に人影は見えるものの生存不明という状況。雪に埋もれた自動車の救出道を除雪機で確保した後、車中の生存者を迅速に救助、ストレッチャーで救急車へ搬送するまでの一連の訓練でした。当日は、強い風雪が吹き付ける本番さながらの天候でしたが、訓練を行った職員・団員はひるむことなく、それぞれの役割を遂行していました。



救急講習会（2月14日・26日）

2月14日には美国婦人防火クラブが、2月26日には美国中学校2年生が消防職員による緊急時の救命処置を学びました。今回の救急講習は意識を失い、心肺停止となっている要救助者を発見した後の処置を体験。心臓マッサージと人工呼吸を行った後、AED（自動体外式除細動器）を使用して心臓の働きを取り戻すまでの一連の流れを実際に行い、いざという時の対応法を学びました。

炊き出し訓練（3月9日）

積丹婦人防火クラブ連合会が消防積丹支署車庫内で災害時に備えた炊き出し訓練を実施しました。今回で7回目となる訓練では、豚肉と玉子の「他人丼」とパスタサラダ、味噌汁の調理が行われました。参加者は普段と勝手の違う大型の調理機器の使用法を一つひとつ確認しながら丁寧に調理を進めていました。予期せぬ災害に備えたこのような訓練は、町民に安心感を与え、頼りにされる防災対策の一つです。



平成27年度交通安全功労者等表彰

長年、交通事故防止に貢献された交通安全功労者と優良運転者の方々が、全日本交通安全協会等から表彰されました。

受賞者のうち、交通栄誉章「緑十字銅章」を受賞した河岸悟郎さんに、3月9日、役場町長室で表彰状が伝達されました。また、北海道交通安全協会等からの受賞者には、それぞれの自宅や事業所等で伝達が行われ、交通事故防止の誓いを新たにしていました。受賞者は次のとおりです。

- （一財）全日本交通安全協会交通栄誉章 緑十字銅章
【優良運転者】 河岸 悟郎さん
- （一財）北海道交通安全協会会長表彰
【優良運転者無事故30年以上】
佐藤 弘美さん 馬場 大さん 佐藤 隆二さん
【優良運転者無事故20年以上】 住吉 義信さん
- 北海道警察本部交通部長・札幌方面交通安全協会会長連名表彰
【交通安全功労者】 加藤 郁夫さん
- 札幌方面交通安全協会会長表彰
【交通安全功労団体】 積丹町立野塚小学校 美国郵便局
【優良運転者無事故15年以上】 山本 曠さん
- 札幌方面交通安全協会会長連盟表彰
【交通安全功労者】 羽根田 公彦さん

「北海道飲酒運転の根絶に関する条例」が施行されました

北海道では、道民一人ひとりが「飲酒運転をしない、させない、許さない」という規範意識を持ち、社会全体で飲酒運転を根絶し、道民にとって安全で安心して暮らすことのできる社会が実現されることを目的に「北海道飲酒運転の根絶に関する条例」が平成27年12月1日施行されました。

また、これを受けて、平成28年第1回町議会定例会では、「飲酒運転を根絶する決議」が議決されました。

町づくり活動支援事業補助金活用事例紹介①

(E26) 手造り味噌事業 (工房花織里)
 (E26) 味噌の加工食品事業 (手造り加工倶楽部)

町では、一般寄付金やふるさと納税寄附金、(財)民間都市開発推進機構からの拠出金、国の過疎対策事業債などにより積み立てた基金をもとに「町づくり活動支援補助金」で、町民の皆さんによる自主的な地域づくり活動を支援しています。

今回は、この補助金を活用し、平成25年度に「手造り味噌事業」で味噌作り、平成26年度に「手

作り加工食品事業」で乾燥野菜作りを行った板野千恵子さん(婦美町)にお話を伺いました。

この補助金を活用したきっかけについて板野さんは、「味噌作りは20年も前から行っていた、品質には自信がありました。が、麴については手造りに大変

な手間がかかり、販売等行うことを考えた時にそれが課題と感じていました。そして、乾燥野菜は、商品の基準に達しない野菜と農閑期の時間を有効利用出来ないもの

比較して大きく向上、乾燥野菜についても様々な野菜で実験を行い、活用の可能性がどんどん広がっていったそうです。

「積丹町は積丹町産の物を手に入れることが難しいという声をよく耳にします。私達が積丹町産素材で作った加工食品がその一つになれば」と話す板野さん、当然次は販売方法を仲間と構想しています。しかし、それを実現するため加工施設の確保が必要となっています。今は機械を一時的に婦美会館等に置いて作業を行っています。ここでは加工施設としての認可が得られず商品化が出来ないため、現在はその課題解消の道を探っているそうです。

今後、自慢の味噌の商品化と、現在野菜のみに使用していた乾燥機は、エビ等をはじめとした魚介類にも手ごたえを感じながら良いものを作る方法を検討していきたいとのこと。

「きつと良いものは作れていると思います。多くの人に味わってもらえるよう更に努力していきます。」と今後の意欲を話してくれました。



味噌

乾燥野菜

味噌の生産効率は導入前と

原子力災害時の防護対策が充実！

婦美・神岬地区に簡易型電子線量計を設置

泊発電所を中心に、半径30km圏内の緊急時防護措置を講ずる区域(UPZ)内に含まれる本町では、防護措置実施の判断基準となる線量率に基づき、避難や屋内退避の判断が行われます。

この判断を迅速に行うために、北海道では、緊急時に空間線量率の測定が可能な「電子線量計」を、婦美地区(婦美会館前)と神岬地区(神岬会館前)に整備しました。測定したデータは、緊急時にオフサイトセンター(共和町)に参集した防災関係機関で情報共有され、防護措置の実施判断に活用されます。

なお、電子線量計の表示窓では測定データを確認することができますが、今回設置された機器は、すでに美国地区や余別地区に整備されているものと機能が異なる機器のため、あくまでも参考値としてご覧ください。



婦美会館前



神岬会館前